

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300171		
法人名	医療法人社団 翔仁会		
事業所名	グループホーム 雪ぼうし(1Fユニット)		
所在地	北広島市輪厚704番地31		
自己評価作成日	平成 31年1月19日	評価結果市町村受理日	平成 31 年 3 月 29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvosyoCd=0171300171-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・緑豊かな環境の中に立地しており、サンルームからは四季折々の景観を楽しむことができます。入居者様は広々とした空間で季節を感じながら、暖かい家庭的な雰囲気の中で生活しております。

・輪厚三愛病院、老人保健施設エスポワール北広島、介護付有料老人ホーム悠々と併設しており、入居相談時から入居後も入居者様やご家族様の様々なニーズに応えることができます。また、併設病院と24時間の医療連携が整っていますので安心した生活を送っていただいています。

・地域との連携を意識し、地域ケア会議へ参加するなど地域密着型サービスとしての役割を担えるよう取り組んでおります。

・毎月行事企画も入居者様の楽しみのひとつとなっており、季節の行事や外出・外食を入居者さまと一緒に楽しんでおります。

・職員全員で理念に基づいたケアが実践できるよう日々取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道央自動車道輪厚スマートインターに近い閑静な住宅街の一角に立地し、近くには白樺などの樹林があり、四季の移り変わりを感じることが出来る。法人はグループホーム、病院、介護老人保健施設、介護付有料老人ホームを運営し、施設間は階上通路でつないでおり、急病などの緊急時や冬期間の移動等にも活用されている。事業所間で人事交流や運営会議などを合同で行って、災害対策や行事、研修などを通し質の高いケアに努めている。当事業所は3階建ての1~2階で、3階は病院のスペースになっている。病院とは24時間医療連携が整っており、利用者や家族にとっても安心に繋がっている。利用者は地域の高齢者の慰安会に参加したり、法人の夏祭りでは事業所の広い駐車場スペースを利用しながら地域住民も参加して交流している。傾聴ボランティア、中学生の除雪ボランティア等が来訪して交流を深めている。職員は明るく親身に利用者へ接しており、レクレーションを兼ねた運動(体操、ボーリングなど)で、リハビリを取り入れながら利用者の健康面の維持に気をつけている。利用者は、居間でリハビリ体操やかるた等のゲームをしたり、会話をするなど、思い思いにゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目のつくところに掲示し、日々意識しながら実践につなげている。	事業所理念は設立から一度改訂され現在に至っている。全事業所で毎週金曜日にホールのあるエスポールに集まって法人の基本理念、事業所理念を読み上げている。職員がいつも持参している身分証明書には理念や行動指針があり、いつでも見れるようになっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や高齢者慰安会に毎年参加したり、地域のボランティアを受け入れ交流している。	町内会に加入しており、地域の祭りや敬老会、高齢者慰安会に参加している。事業所の夏祭りや広報として町内の回覧板を利用して周知している。また、法人全体の夏祭りには地域住民が参加して交流を深めている。中学校より除雪ボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活かしている	認知症キャラバンメイトの活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員の方々や行政担当で2か月に1回開催し意見交換している。	市職員、高齢者支援センター職員、町内会長、利用者等が参加して、年6回開催している。会議では活動報告や事故報告、日々の生活ぶりなどの報告を行い、意見や助言を得ながら、ケアサービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北広島市介護サービス連絡協議会主催の部会活動へ携わっており、行政職員の参加もある。	市担当者とは運営推進会議で助言を得るだけでなく、訪問して事業所に対する助言や意見を得ている。3ヶ月に1回介護サービス連絡協議会に参加して情報を得ながらケアに反映させている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	状態、状況に合わないケアについては、会議などで検討し改善に努めている。	法人合同で身体抑制廃止委員会の研修会が行われており、事業所でも報告を受けながら職員で共有している。また、外部研修にも参加して研修内容を共有している。家族の同意を得て、人感センサーを使い事故防止に活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、学んだ内容を会議などで周知し、防止に努めている。		

グループホーム 雪ぼうし(1Fユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域ケア会議へ出席。成年後見センターとの連携もあり必要に応じて対応できるように備えている。 研修会への出席を通じ、制度理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日前に重要事項説明書にて説明している。 契約時には改めて説明することで十分な理解がなされるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りや面会時に日頃の様子を伝えたり、意見や要望を伺うように心がけている。	来訪する家族は多く、家族から意見や要望を聞いており、利用者からは日常の会話から意見などを把握している。来訪できない家族を含めて、毎月の便りで利用者の状況を知らせながら、電話や手紙にて意見や要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や毎月の会議で意見や要望を聞くように心がけている。	個人面談を年1回実施しており、個人の目標設定や事業所の目標に対する結果等を報告し、意見や提案も含めて聞く機会を設けている。また、日々の業務の中では管理者と職員は意見や要望を聞ける環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフそれぞれが目標設定し、シートを活用することで向上心を持ちながら働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促し報告書で研修内容や今後の取り組みなどを確認、面談を通して個人のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島市介護サービス連絡協議会主催の部会活動で他施設職員との研修会や親睦会などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾け、何が本人にとって必要なのかを見極め、不安を軽減できるように話をする時間を作り、その都度対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時に要望などを聞き、ケアプラン説明時にも要望を聞きプラン作成や家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活に慣れるよう本人の支援レベルを見極め、あらかじめ考えられるサービスの周知に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のADLに合わせたできる事、できない事を把握し、家事やレクリエーションの参加に努め一緒に行う事での関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて日々の生活状況をお伝えしたり、面会時にも生活の様子をお伝えし、家族との信頼関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族友人知人の面会時には、テラスや居室で気兼ねなく過ごせるよう支援している。	家族や知人が来訪した折には、お茶を出しテラスや居室で寛いでもらっている。また、利用者家族等の協力を得て墓参り等に行っている。美容師が来訪して利用するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでのレクリエーションや家事などのお手伝いを通して、利用者同士の関わる時間を作り、レベルに合わせ支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の生活に不安や心配を抱えないよう、都度相談を受け付けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や訴えに対しできる限り希望に沿えるよう努め、本人が選択できるような声かけを心がけている。	日々の関わりの中で出来るだけ声かけをして、思いを把握するようにしている。日頃の言動からも希望や意向を汲み取ったり、家族からの情報を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前情報や入居後に家族様からの生活歴や馴染みの暮らし方を聞き、シートに記入し情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンの把握と個別の関わりの中で、有する力等現状のADLの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議でのカンファレンスや日々問題になることを個別にカンファレンスし、現状に即した介護計画を作成している。家族様へは面会時等に説明し同意を得ている。	利用者や家族から希望などを把握し職員で毎月カンファレンスを行いアセスメントとモニタリングを繰り返しながら、3か月毎に計画の見直しをして、家族の確認印を得ている。変化が生じた時は現状に即し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを実践し、気づいたことは個別のシートに記入し情報の共有に努めている。問題点は個別のカンファレンスをしケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じての本人や家族のニーズに、できる限り対応しサービスの向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内のボランティアを受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している病院のかかりつけ医に、病状の変化や対応を相談し連携している。	かかりつけ医受診の継続を支援している。基本的には家族対応での受診になっているが、職員が付き添い受診することもある。受診記録は同行した職員や家族からの報告を基に作成し、常に利用者の状態が把握できるようになっている。併設している病院より、月2回の訪問診療が行われており、利用者の健康管理は看護職員によって定期的実施されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や病状の変化を報告、医療面での相談をし早期の受診や対応ができるように連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書や内服の処方箋の提出と、病棟看護師、相談員との引継ぎ連携をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針で説明している。	入居時に利用者、家族に「医療連携・重度化に関する指針」に基づき説明し確認を得ている。重度化した場合は、家族等と話し合い、事業所で出来ることを説明し、家族の希望に添うよう支援している。看取りの実績はないが、併設している病院との連携をしながら、家族の意向を尊重した支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人合同の消防訓練や、研修参加にて避難できるよう訓練をしている。	併設している病院や施設との合同訓練を年2回実施しており、その内1回は消防署立ち合いで行われている。胆振東部地震やブラックアウトによって、法人の自家発電の規模を大きくして、全施設の対応を行っている。備蓄についても3日分は確保して、野菜や米なども常備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語での言葉かけは徹底されていない、馴れ合いの言葉かけを職員間で意識、注意していかなければいけない。	人としての誇りを損ねるような言葉かけや対応をしないよう配慮している。また、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように接遇研修やカンファレンス等で話し合い、言葉かけや対応に配慮している。個人情報の取り扱い、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き、自己決定できるような選択する声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で本人の希望に沿えるよう声かけし対応できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用や毎日の身だしなみに気を付けるよう心がけている。		

グループホーム 雪ぼうし(1Fユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物を聞いたり旬な食材を使っての行事を企画し、一緒に準備したり調理をし食事が楽しめるよう支援している。	利用者の体調や希望を聞きながら、栄養のバランスを考えた献立をたて、利用者の能力に応じながら料理も一緒に作り、食事を楽しめる工夫をしている。誕生日にはケーキやちらし寿司等を提供して食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専用の表を活用し食事量や水分量の把握、必要に応じて嗜好品での補食や介助にて栄養が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握と専用の表を活用し、トイレ誘導を促している。	排泄チェックを行ないながら、排泄パターンを把握し、トイレでの自立排泄を支援している。身体状況からオムツ使用者も、リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳の飲用や乳製品の活用、毎日の運動の参加を促し予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミングにできるだけ浴えるよう努めている。入浴が嫌いな方には曜日を決めて習慣化、し入浴できるよう支援している。	入浴は週2回、時間帯は午前10時からと午後1時30分からとしているが、体調に合わせ無理のない入浴回数で入浴の支援を行っている。毎回お湯を張っており、その人の体調や気分により足浴やシャワー浴と切り替えながら、無理のないよう楽しい入浴の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休息の声かけと、夜間安眠できるよう活動のバランスをとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋での用法、用量の把握や医師、看護師との病状の変化や服薬方法を相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った無理のないお手伝いの声かけと、嗜好品の提供にて気分転換できるよう支援している。		

グループホーム 雪ぼうし(1Fユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はできていない。	利用者の高齢化に伴い、外出機会が少なくなっているが、家族の協力により外食に行ったり楽しんでる。また、ミニドライブで近隣のスーパーに行ったりソフトクリームを食べに行く等外出の支援を行っている。	年間の外出の機会や散歩等が少ないのが現状。よって、利用者の精神的なサポートと運動を兼ねた花見や近隣の公園へ行くミニドライブや散歩等の外出機会を多くする事を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売の来設の際には一緒に買い物を楽しめるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次や郵便の投函の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの装飾を取り入れ、季節感を感じて頂いている。混乱をまなかないよう静かな空間づくりに配慮、工夫をしている。	居間と食堂は一体的で、円形の窓のサンルームからは日差しが入り明るい。ボランティアが来訪して花を活けたり、季節感ある飾りつけを行い居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別席での対応や、時にはテーブル席での食事やレクリエーション参加ができるよう対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や好みの物を持参して頂くようにしている。	クローゼットやカーテンは常設されているが、介護用ベッドは事業所の備品として提供している。ダンス等の家具や仏壇を持ち込み、家族の写真を飾りながら、居心地の良い空間を作っている。また、利用者の馴染んでいる茶わんやお箸などを持ち込み日々の食事を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室などに表示をしわかるようにしたり、廊下など動線を妨げないような家具の配置に心がけ安全に生活できるようにしている。		